令和２年２月８日　二宮西中学校意見交換会

出席者　17 人

１　開会
　　14:00～

２　挨拶
　　森教育長

３　説明
　・永井指導主事　「第１回意見交換会で出された学校配置に関する意見の比較について」
　　「小中一貫教育のメリット・デメリットについて」

４　意見交換

川勾地区住民：町長の新春の挨拶の中で、２校には固辞しない、教育長も２校には無理があると言われた。今回の案の中でこの２校というのが当初案だけを示している案なのか、それとも ABCDE までの２校の事を示しているのか教えていただきたい。それと２つ目にはラディアン裏や東大跡地だとか、第１回目の意見交換会の議事録を読んでもこの言葉が出てこない。ラディアン裏と東大跡地はどのような経緯で出てきたのか教えていただきたい。３つ目は評価の項目の中で、当然必要だと思うが校庭のスペース等がありますが、校舎の耐震性や安全性が資料に入っていない。非常に大切な項目で比較の対象になるとは思うが何故それが項目として入っていないのか教えていただきたい。最後に一貫校につきまして、これも二宮町のホームページに記載されていた内容で、ある先生が「学校が廃校になるとその地域のコミュニティがいっぺんに崩壊されてしまう」と書かれていた。廃校になった時にその地域に対する認識がコミュニティの重要性を含めてどの程度持っているのかを教えていただきたい。

教育長：２校に拘らないというお話をさせていただいたのは当初案のＡ案を元に１回目の意見交換会に回らせていただいた経緯を含めてですが、完全な物が出来るとは思っていません。ただ、案を出すには委員会として責任を持った案を出さなければいけないのでＡ案という事で出させていただいた。１回目の意見交換会の各会場でやはり子ども達の通学距離や通学時

間、特に小学１年生を考えると今でさえ 40 分掛かっている事もある。それを更に伸ばす事はいかがなものかという意見をいただいた。そうすると、現在の小学校区の３つの中には学校を残すべきという意見が多かったという風に受け止めている。話にもあったように、２つの案というのはＡ案だけではなくＢ案Ｃ案もありますが、どの案でなければならないのかというのは思っていない。２つの案に拘らないというのはＡ案でもＢ案でも同じです。３つでもいいし、提案でなくても、ただ皆さんのご意見を受け止めた上で小中一貫を進める為に「どうしたらいいのか？」という事で、２度目の意見交換会で話をさせていただいている。ですから、Ａ案Ｂ案に拘ってはいないのでご承知いただきたい。

指導主事：ラディアン裏を候補地とする件ですが、７月 26 日の町民センターでの住民からの意見で、ラディアン裏に新しく作れば図書館やラディアンホールを有効に使えるのではないか。また、花の丘公園も近くにあるので未就学児には公園から小学生が見えるという事になるので小学校に通う事への不安も減るのではないかとの意見を議事録の中から確認する事ができた。

部長：残りの３点ですが、ラディアン裏や東大跡地の関係については新設校を１校作ったら良いのではという話を、若いお母さんから意見としていただいた。ラディアン裏については前回の意見交換会で町民センターだったと思うが、若いお母さんから意見がありました。また東大跡地については具体的に意見交換会ではありませんが、地域を回り、東大跡地の中でいろいろなイベントを行っている中で話を聞くと東大跡地も１つの候補になるのではないかと意見もいただいた。それから町が東大跡地を取得した時に今すぐにではないが、40 年後 50 年後に、ここは１つの学校の候補地になる、公共施設として学校の候補地になるという長いスパンのものがあったので東大跡地を案に入れさせていただいた。ただ、ラディアン裏については町長からハザードマップの見直しがあり、庁舎もラディアン裏の駐車場ではなく周辺に検討している。東大跡地についても町民の方々が有効活用しようという当面の方向性がありますので、なかなか学校用地として使うというのは難しいと思っている。ラディアン裏につきましては議事録に入っていると思いますので確認します。

校庭のスペースは、評価項目として入れさせていただいている。校舎の安全性や耐震性ですが、５校の耐震診断をして耐震補強はされているので、今現在の地震についての心配はない。ただ、老朽化はある程度の年数が経

過しているので、来年度以降なるべく早い時期に学校自体の点検をして、どのぐらいの改修や修繕が必要になってくるのか整備していきたい。今、安全性があるかと問われるとそれは全て〇です。しかし、何年に建ったかという古さについてはどの校舎が古いのかそれは評価項目に入れると思う。

それから学校と地域のコミュニティの関係については、これは先程教育長が述べた通りやはり学校と地域というのはとても大切な事だと思う。1回目の意見交換会でも沢山の意見をいただいた。コミュニティ・スクールという事で地域の方々の支援ご協力をいただいている。今後も児童・生徒数が少なくなっていく中では地域の協力が今以上に重要な事になってくると思う。小学校区になると思いますが、そこの地域には１つずつ学校が必要になると思います。先ほどの２校には無理があるということにつながっていくことです。そこはきちんと整理して考えていきたい。

梅沢東地区住民：学校というのは安心・安全である場所だと思う。そういった中で通学距離が１番の重点になると思う。山西に住んでいる場合、もしＦ案になったら西中学校に通う。本来であれば二宮中学校に通う事になるのだが、この判定が半径２㎞を超える事がない。その２㎞に拘わる必要があるのか。二宮中学校であれば 15 分で済むのに対して、身軽な私でさえ 30 分は歩かなければならない。中学生は重たい教科書は持つし、部活動の道具もありで、倍かかってしまうので、安全確保は難しいのではないか。そもそも比較表の１番右側の現状の所ですが、上３つはいわゆる県から二宮町が指定されたが故に小中一貫校を進めていく上で△が付いているだけである。むしろ進めていかなければ下の方は◎◎〇△〇〇です。そうであれば、△の一色小学校の全学級で単級化するというここだけを考えて、ここのケアをしていく事の方が良いのではないか。県から降りてきたことに対応する事によって、これだけ住民は困惑するし、教員も色々と困惑する。

そもそも小中一貫校は要らないのではないか。小中一貫校にする事によって９年間になるし、１度ミスをしてしまった人間関係が９年間で戻る事はないと思う。モンスターペアレンツがクラスに居ると教員は９年間に渡り対応しなければならない。６年間見て３年間は中学校に送り出すのと、９年間見続けるのとは違う。小学校への授業の乗り入れもあったが、評価はどうするのか。中学校の評価スタイルと小学校の評価スタイルは違う。プランとして提示されたものは中学校１年生と小学校６年生という授業時間案だったが、今中学校では他学年に授業を教えに行く先生もいる。そ

うすると３学年教えることになる。そうすると教材研究が大変になる。色んなリスクがある中で本当に小中一貫校をここまで押していく必要があるのか疑問です。

一色小学校の人が不便にならないようにケアをする。単級がもしいやという意見が多数であれば、スクールバスを入れて山西小学校に通わせるとかして、何とかケアをすればよいのではないか。私自身も単級で育ったがそんなに思わなかった。

部長：地域と学校の繋がりというのはとても大事な事だと思う。一色小学校区の百合が丘、緑が丘の方も地域に学校は欲しいと言っている。一色小は来年度すべて単級になる。そのうちなくなってしまうという危機感を持っているので、いろいろな活動で学校の中にコミュニティ・スクールとして入って来ていられる。どうしたら地域に学校を残して地域の方々と共に学校を育ててもらうということができるかを考えたい。

課長：例えばですが、今までの意見交換会だと出来る事から先にという中で学区を先に再編して欲しいという意見がでている。一色小学校の方は単級で困っているという保護者もいる。その場合に例えば中里が一色小学校区に行くと単級が解消する。そうすると今度は山西小学校区が単級化してしまう。前回もこの会場で出た意見の中で、梅沢はもともと大字でいえば山西なので山西小学校でもいいのではと言う方もいる。梅沢が山西小学校区になれば山西小学校が単級化しなくなるので、中里と梅沢の学区再編をすれば三小学校がすべて単級は解消されるという意見もある。梅沢東の住民としては厳しいと思われていますよね。そうすると一色小の単級をどうケアするかはバスという話になるのか。

梅沢東地区住民：バスでなくても要はそこが単級化にならない為に、全体を動かすのではなくて、少しずつ学区を動かしていくとか何か他に方策があるのではないかと思う。中里でも山西小に通うのではなく、一色小に通った方が近いという方もいるのではないか。学区選択制になっているかどうかは分からないが、１つのことに対して全部を動かすと、どこからか不満が出てくる。

茶屋地区住民： 昨年７月この会場で小中一貫校の説明の時、今のＡ案で説明があった。当然この地区においてはあまりにも小学校１年生には距離がありすぎる。その他の案が出てきた。ラディアンと東大跡地について意見

があったとあるが、その時の意見は既に最初から庁舎を建てるという事で、その前から色々と町民代表から意見交換会をやっている中でラディアンの場所に学校を建てるという意見自体が少し違うのではないかと思っている。また、町長も昨年 12 月にラディアンは３ｍの浸水エリアだと発表された。あれも 24 時間で 336 ㎜、それが２日続いてその倍になる。1000 年に１回の降雨量である。それで躊躇して、あそこの場所は再検討することになった。ラディアンのそばに作るという事で、ラディアンそのものがその雨量になったら水没してしまう。あちらへ持って行け、こちらに持っていけと色々な意見はあると思うが、まず学区の再編についてはもう少し急がないで色んな案を練る必要があるのではないか。私はＦ案が良いと思う。しかし、一色小学校は単級化し児童が減少していく地域である。その学区の再編というのは時間を取っていただき 100%は無理かもしれないが、ある程度合意できる案を教育委員会の方も簡単に決めるのではなく、地域の方々の声を訊いていただきたい。小中一貫校については昨年７月の説明会の時に、2022 年から小中一貫教育を進めていきたいというお話だったと思う。学校の先生も大変かもしれないが、今の学区で分離型の小中一貫教育を進めていくという形になればそれを検討したら良いのではないか。例えば今までの６・３制が、今度は４・３・２制にする。小中一貫校をやってみると、相当のメリット・デメリットが分かると思う。今の６・３制で５年生・６年生の高学年の児童は自分が高学年であるというリーダーシップを身に付けている。それで中学生が来た時に小学校５年生・６年生の生徒が躊躇してしまうのではないか。それと１年生が入学した時に中学３年生が同じ学校で面倒を見てくれるかどうか。まず小中一貫教育を進めるのであれば 2022 年から分離型で実行する、そしてその状況を十分に検討していただき、良い面と悪い面を先生と保護者との間で情報交換をしながら進めていただき、これは良いということであれば続ける。それから先で学区の編成の検討を合わせてしていけば良いのではないか。2026 年に西中学校が一色小学校へという説明でしたが、例えば２校にしても中里が東と西に分断されるのがＣ案で、その状況によって色々と変わるのでもう少し学区の再編成については検討していただきたい。Ｆ案についても 2025 年で５年という月日はすぐに経過してしまう。町にも事情はあると思うが児童生徒の人数を勘案しながら、もう少し時間をかけても良いのではないかと思う。小中一貫教育を実行するのであれば、分離型で進んでいただければと思う。

山西地区住民：現在小学校の教員をしている。単級が果たして課題なのか引

っかかっている。前に勤務していた学校は 1000 人ぐらいの大きな小学校で、現在は 100 人を満たない小学校で全て単級の学校に勤務している。それはそれでお互いの良さがあると感じる。二宮町は教育に関して地域を活かした特色のある学校づくりを目指している事を考えているのはすばらしいと思う。しかし、単級化は本当に課題なのか。現在私が勤めている学校は少人数だが、逆に上級生と下級生の繋がりが凄くある。もし大きい学校だと学年団とかクラスで固まってしまうところだが、単級だからこそ上とつながる必然性が出てくるので、上の子は下の子を見て、下の子は上の子にあこがれるという異学年集団は、小規模の方が起こりえるかと思う。それが小規模校の強みだと考える。そうすると一色小学校でも魅力ある学校作りは出来るのではないか。そういう地域の繋がりの良さとか、異学年の面倒を見るという良さで学校の魅力が出る。決して人数が減っていく事が全て課題ではない。ただ学校の施設の運営とか予算的な部分では課題があると思う。乗り入れのメリットのところで少し疑問を感じる。一番大事な事は教科の専門性より子どもを教える上では子ども理解、子ども一人ひとりをどれだけ理解できているかが重要である。子どもによっては早く身に付く子もいれば、身に付かない、なかなか時間がかかるじっくりの子もいる中で、教師はその子にあった指導をしていくのが今求められていることである。子どもが自主的に学んでいく力を育てていくことが大事である。専門性のある人が講義調で喋るような授業は必要ない。そうなると子ども理解をどこまでできるのかである。中学校でも学年団としてやっているので色んな先生がその子を見ているという良さの中で子どもが理解しているという教え方をしているのかなと思う。これがいきなり中学校から来た先生が教えても、子ども理解は不十分であると思う。授業の中に小学校の先生がいなければいけないと思う。小学校の先生がいた中で、専門性を持った先生が来ていますよ。ちょっと教えてもらいましょうか。というやり方であれば、すごく意味があるかと思う。いきなり中学校の先生に任せてしまう場合、小学校の先生は楽だけれど、果たしてそれを行うための連携する時間が現実的に取れるだろうか。そうすると学年団は中学校を解体されて、その小学校に降りて来るわけで、評価の話もありましたが、できるのか難しいと思う。教員の人数が多ければその辺も可能かもしれないが、教員の人数を増やすのがとても大変で求められているのが現状である。3 つ目は一番大事な事はカリキュラムなのではないかと思う。小中一貫にするかしないかというよりも、その地域を活かした特色のある学校を明確にすると保護者としても理解できるのではないか。現時点でカリキュラムが見えない状態なので特色が見えれば良いと思う。

教育長：単級化の問題ですが、小規模校の良さは勿論そうであると思う。今回Ｆ案の中に義務教育学校が入っている。もし義務教育学校ができれば、縦の異年齢集団を９年生まで伸ばすことができる。義務教育学校になると教員の人手が増える。しかも、規模がそれほど大きな学校でなかったとすると、一人ひとりの個別支援計画みたいなものを全ての子どもに作って、９年間持ち続けていきたい。文部科学省も１年から９年ではなくて高校まで含めた 12 年間のキャリアパスポートという制度を導入しようと計画している。子どもの特性を１人１人見取ってキャリアにつなげていく、子どもの良いところを伸ばすためにはどのようなことをしたら良いかを学年を超えても引き継げるように、そして 12 年間その子どものキャリアに結び付けて支援をすることで特化した教育ができると思う。義務教育学校は特別の教科をカリキュラムで組むことができ、独自の教科を作ることができる。そこには特別の教科として、総合の中に一部分を当てて、子ども達が二宮のことを徹底的に勉強して、郷土を愛する心を育てながら、郷土に何ができるかなどを勉強の中に取り入れることが可能かと考える。異年齢集団を少しでも増やすこと、教員が一人ひとりを見取ることを６年間から９年間に引き継ぐことで、よりきちんと見取って寄り添った教育をすることも大事と思う。カリキュラムについては現在ワーキンググループを作って研究しているが、全ての教科を教科担任制にするということは考えていない。二宮の独自の教育をするには、例えば社会科で９年間のカリキュラムを作る上で、二宮だったらここの単元、ここの題材は中学校の先生の力を入れて、より徹底的に勉強しようということができれば良いと思う。年中教科担任制をするのではなくて、小学校の先生は学級担任だから、子どもの全ての見取りをしなければならない。英語科が入ったとしても、ＡＬＴが入ったとしても、英語の成績はつけなくてはならない。英語専科が入ったとしても英語を見る必要があると思う。教科担任制といえども、学級担任としての責務は果たさなければいけない。中学校教員は仕事が増えていますが、逆に小学校の教員の中にも部活動をやりたいという先生もいる。サッカーが得意で部活動をやってみたいという人もいる。そういう方々の為にも部活動を導入する事で小中一体型でやっていけば教員のワークシェアもできると思う。また地域のＰＴＡにおいても、共有できることがあると思う。そういう事も含めて小中一貫教育を考え、またもし可能であれば一色小学校で義務教育学校を先行して作って、新たな「二の学」みたいなものが成功すれば、施設一体型の学校も義務教育学校化を将来に見据えて成就させられたら良いのかと考えている。まだまだ研究しなければいけ

ないことが沢山あり、先生方と協力してやっていけたらと思う。

茶屋地区住民：教育長が仰っていましたが、一色小学校を３校まとめたものになると義務教育学校とはどのようなシステムなのか。小中一貫教育は６・３制を一貫して施設一貫型で行くと４・３・２制で、小学校 5,6 年生は理科とか専門の先生が来るわけですよね。それと義務教育校というのは小学校と中学校が一体型であって、その中で４・３・２制をひくのか。

教育長：学校ごとでそれは工夫する事ができる。

教育委員： 補足させていただくと、学年の呼び方が義務教育学校は１年生から９年生になる。そこは小中の区別がなくなる。その９年間をいくつかの段階に分けるやり方は学校に委ねられる。その代表が４・３・２という区分けである。今までは６年生になった時に中学生になるという気持ちの切り替えの部分があったと思う。それを一旦４年生で体験をさせ、そこに１つ成長に必要性のあるリーダーシップをつけてあげる。場合によっては５年生から制服を着用させたりして気持ちの切り替えを出来るような仕組みを作っている。キャリアアップという部分として７年生が終了した時にその先の進路あるいはその先のキャリアを決めていく教育を体験させる仕組みもある。９年間を大体３つのゾーンに分けてやるという学校の仕組みである。そこのカリキュラムが自由に組めるというのが義務教育学校である。

茶屋地区住民：小中一貫で説明を受けたときに沢山の説明を受けた。４・３・２制で小学校５，６年生は中学校の算数、理科の先生が来て専門的に教えてくれる。今まで学級担任制で、６年生までは学級の担任の先生が音楽以外は教えていた。例えば一色小学校だけ義務教育学校の教育課程を取った時に他の小学校は４・３・２制でやって、学力的には大丈夫ですか。

教育委員：そこの違いは考慮しなければいけない。教育の違いが町の中であまり付いてはいけない部分です。そこは検討が必要です。京都の大原学院を視察した。そこは９年間義務教育学校です。校長先生は１人で、４・３・２のフォーメンションをとり、４年生が終わった時に縦割り班リーダーとしての発表会をする。５年生からは制服です。そこで気持ちを切り替える。学校の教室配置も少し違いあり、４年生の近くに中学２年生・３年生がほぼ隣の教室で毎日生活している。８年生・９年生は受験に向けて自分で勉

学する。廊下にプリントボックスがあり開けると自習学習のプリントが沢山入っている。それを日々取り出して自分で勉強を始める。それを低学年の３年生・４年生が日常的に見ている。そこで３年生・４年生は高学年になったら自分で勉強するという認識が出来るようになる。運動会も一緒である。教室・廊下の掃除についても低学年と高学年が一緒に掃除をする学校でした。

茶屋地区住民：大原学院の規模とは、小学校から中学３年生まで、全校で 100 人です。二宮町ではそうはいかない。それは参考になれば良いが 100 人と二宮町の学校では児童数が違うのではないか。

教育委員：そこはそのまま当てはまらないと思う。良い所は持ってきて二宮町なりの工夫をしなければいけない。そのままイコールというわけにはいかない。補足すると、先ほどの乗り入れ授業の件ですが、以前理科の授業を見学した。１つの教室に小学校の先生と中学校の先生が２人いる。中学校の先生が授業を進行して小学校の先生が後方で見ていて道具が揃えられない子どもに対してサポートしている。中学校の先生は授業の仕方が力強い。小学校の先生は面倒見が優れていて、サポートが充実している。ついて行けなそうな子のサポートをしている授業である。小中の乗り入れ授業のポイントになるのは、子ども達の理解をいかに遅れなく推進していけるかである。ぱっと行けるかが一番のポイントである。そこに対するメリットとしても乗り入れ授業が最大限に活かせる仕組みだと感じた。大原の先生に「何故大原学院に来たのですか？」と訊いた。先生の回答は「４・３・２の３年生の部分がやりたくてこの学校に志願した」という事だった。最後に一言言われたのは「教員として腕の見せ所です」と話された。先生方から見てそれなりの魅力のある仕組みと感じた。

釜野地区住民：保護者が思っている事は現在ある小学校に満足しているのに、あえてデメリットが多いような感じがする小中一貫教育にするというのはいかがなものか。例えば９年間同じ人間関係で再スタートが出来ないというデメリット、それから校庭や体育館等のデメリットがあっても小中一貫教育校が良いと思えるような二宮町独自のカリキュラムとか、学校を改装したりして、ハード面からも魅力ある学校に通わせたい。そういう意味で新設という意見もあった。既存のものを改修するのも良いが、二宮町独自のカリキュラムみたいなものが見えてくれば通わせたい。保護者も協力的に思うのではないと思う。ここに通わせて良かったと思えるようなもの

がイメージで分かれば協力的になると思う。

教育長：現在に満足と言っていただくのは嬉しいですが、満足していただけではだめだと思っている。二宮町の魅力として、二宮を発信していって、こういう教育をしているから、子どもに特化し素晴らしい教育だから賛同してくださいと言えるくらい、自信を持って教育を打ち出すことが必要だと思う。

　そのために先生方にワーキンググループという話をし、研究していただいている。また町の財政が厳しい中で、エアコンを入れていただいたり、タブレットを入れていただいたりしている。更に先んじて個別支援で１人１人のキャリアパスポートではないが、一人ひとりを見取った指導要録とは別のもので子ども達の引き継ぎをし、この子にはこういう特性がある。ここを支援すると良い。そういったことを引き継いでいけば、子どもの良さを伸ばして、更に素晴らしい子どもができるのではないか。自信を持って教育しているんだということを打ち出すべきである。地域の方々の教育力やコミュニティ・スクールが始まってから地域の方々は素晴らしい力を持った方が沢山いるというのを発見した。蕎麦打ちをやったり、地引き網をやったり、ＩＴクラブの方がパソコンを持ち込んでプログラミング教育の走りをやっていただいたりしている。いろいろなことで力を持った方が沢山いられる。そういった地元の力をどんどん取り入れていきたいと考えている。先日も二宮演奏家協会の方が「是非何か協力は出来ないか」と、ボランティアで子ども達に生の音楽を授業の中で提供していただけると言われた。プロになる卵の方が沢山いるので、地元の演奏家協会の仲間を授業の中に派遣できないかという話でした。他の人達からも「こんなことができるのですが」というものがあり、地元の方々の情報を集約して、二宮のコミュニティとしての力を醸成させていくとそれぞれの学校ごとに、または学校の輪を越えてコミュニティの皆さん、地元の方々にゲストティーチャとしてどんどん学校に入ってもらって、学校を開かれたものにしていただいて、子ども達を大勢の人たちで育てていきたい。子どもが町を歩いていても挨拶ができるような、地元の方と子ども達が顔がつながるようなコミュニティが二宮町にできたら良いなと思っている。

川勾地区住民：２，３日前のNHKの朝の番組で、広島県で民間から教育長になられた方の番組を観た。県の教育に関する大改革をした先生の話しをしていた。観てびっくりした。果たしてそこまで、どこの学校でもできるかは疑問であるが、例えば１つだけ挙げるとすれば、図書館のソファに寝

転んで利用していたという事で図書館の利用が高まった。その教育長は新しいことをどんどん取り入れているらしい。子ども達が喜んでいるというのが第一印象であった。ああいうものを１つの参考にしていただけたらと思った。

教育委員：補足させていただいて良いですか。現状これから先、子どもが減っていくのは確実に分かっていて避けられない。例えば学年の横の人数の幅が狭まってしまうのは避けられない。横が狭まるならば縦に伸ばしてやろうとするのが、小中一貫教育を取り入れるそもそもの考え方の基本です。縦を伸ばした時に先生方のパワーというのを十分に賄いきれない部分があるので、それを横で地域の方の力を取り入れて、コミュニティ・スクールをつける事で教育のクオリティを下げないようにすることだと思う。二宮は今後そういう形態を取り入れて教育の質をキープしていく、あるいは上に向けていくのは基本的な戦略のひとつである。幅は狭まった分、小中一貫で縦に広げてあげる、それをコミュニティ・スクールで幅を広げてあげることだと思う。先ほどのキャリア教育の部分も先生方はおそらくどうやって勉強をしたらいいのか教えるのが専門なので、そこはしっかりとやっていただく。地域というか実際に働いている人は子ども達に世の中のことをちゃんとうまく説明してあげて「何故勉強しなくてはいけないのか？」のような疑問を役割分担して教えてあげることが必要だと思う。子ども達には常に先を少しずつ見せてあげることが大事なことの一つと思う。やはり小学生と中学生の最大差９歳差の子ども達が一緒にいることのメリットはある。自分の道を導けるような基礎的な力を９年間で付けさせる事が一番のコンセプトかなと思います。それを教育の魅力として発信していけたらと思う。だから学校の仕組みとして縦に拡大する、地域の力で横を増やしてあげる、みんなでそれぞれの枠を広げて、確実なものにしてあげることだと思う。そこに向かって進んで行きたいなと感じる。

茶屋地区住民：実際やってみないと分からない。理想論ばかり言っても仕方ない。今の６・３制で学校の先生が一生懸命に教えて児童・生徒がそれなりに学力も身に付けてきた事を変える。まず小中一貫教育は 2022 年から取り入れたいという形ならばスタートしていただき、メリット・デメリットの問題があるが学力が伸びるとか、いじめがなくなるとか、不登校がなくなるとかそういう形になればそれを進めていってもらえば良い。本題になる学区の再編については、地域ごとに色んな意見がある。そこをもう少し研究していただけたらと思う。2025 年と言わず検討してもらいたい。

当初案が一人歩きしたのが間違いである。中身は全然議論しないで、ある部分で一人歩きをして、これが大混乱の問題だと思う。そこは大いに反省をしていただきたい。

部長：皆さん本日は大変長時間に渡りまして沢山のご意見をいただきまして、ありがとうございました。町民の皆さんのご意見を聞きながら一歩一歩丁寧に進めていきたいと思う。ただ、いろいろと学校も課題があるので、課題については早め早めに対応しなければいけないこともある。出来る所から１つずつ、小中一貫教育についても一体型でなくてもできるところがもちろんあるので、研究をしながら出来る所から１つずつ始めていきたいと思う。今日いただいた意見を踏まえて、見直して、皆さん方にできるだけ見える形で二宮町の教育を見える形で示していきたい。また引き続き是非ご協力をお願いしたい。本日は長時間に渡りありがとうございました。